

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702685
法人名	株式会社プロデュース
事業所名	グループホーム きらめき
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区本城東1-11-27 (電話) 093-695-3850

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年7月17日	評価確定日	平成21年9月10日

【情報提供票より】(平成21年6月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	8人, 非常勤 12人, 常勤換算 11.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 3階建ての2~3階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)10,000円	
敷金	有(150,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,500円				

(4) 利用者の概要(6月22日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	手島内科医院・みさこ内科クリニック・永田外科内科医院・福岡新水巻病院・川野歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大規模な団地や住宅、商業機能(本城市場等)が集積する暮らしに便利なエリアに位置し、1階は店舗・会社・集会場となり、2・3階が2ユニットのグループホームである。1階にある建設関係の事務所との良好な関係があり、災害時の協力・ホーム内の修理・運営推進会議の際の会議室の利用など、バックアップ体制がある。また、敷地内に代表者の住まいもあり、夜間等の緊急の際には代表者がかけつけられるなど、入居者や家族、職員にとって大きな安心となっている。近隣の飲食店(ラーメン・お好み焼き・角打ち等)や映画館などへの個別の外出への支援を行い、地域行事にも積極的に参加し交流が育まれている。おしゃれな着こなしでゆったりと過ごしている入居者の方々、さりげない心配りと笑顔が絶えない職員の方々の姿が印象的であった。入居者が「今」を生き生きと過ごせるような支援に、日々努めているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価以降、地域密着型サービスの役割が反映された独自の理念が創られている。また個別ケアを重視したサービスの提供ができるように、センター方式を導入するなど、新たな取り組みがある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>2ユニット間で話し合いながら、自己評価を作成し、評価結果を職員に周知し理解を育み、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の開催にあたり、2つの自治会・町内消防団・家族・看護師などホームに関わる多くの参加者の都合などを含め、完璧な開催を求めた経緯があり、定期的な開催までには至っていない。今年度は、8月以降、偶数月開催を目指して取り組んでおり、活発な意見交換や情報収集の場となるように取り組んでいく方針である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>入居者・家族が何でも言える雰囲気づくりに努めている。面会時には必ず声をかけ、要望や意見などがあれば連絡ノートやミーティングで職員間で周知を図り、運営面で活かしている。また、ホーム行事の際には、家族との食事の時間を設け、何でも言っていただけ関係を高めていくように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎年、町内の祭りである本城夏祭りに職員・入居者と共に参加し、カレーライス販売など出店を行っている。また、敬老会・盆踊り・文化祭・地域のバスハイクなどにも積極的に参加している。近所には入居者が好むお好み焼きやラーメン屋・角打ちなどがあり、入居者の意にそって出掛け、これまでの暮らしの楽しみや習慣を支援している。今後は、地域に向けて認知症徘徊ネットワークを広げていくなど、認知症の理解を高めていく活動などにも期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「グループホームきらめきは 喜んで・楽しんで・明るく快適に生活を送れるホームを目指します」を理念に掲げ、また地域密着型サービスの役割を担う経営理念として「愛・成長・謙虚と感謝で地域貢献」とともに、入居者の笑顔ある生活の支援に日々努めている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	毎朝、理念を入居者と共に唱和し、ユニットの目標・かけ声「今、この瞬間を大切に！！きらめきFight」をかけている。理念に基づいたケアやサービス提供ができるように取り組んでいる。経営理念に関しては、内容を理解してもらうために、具体的に、わかりやすい言葉で各項目を表示し、職員や関係者への理解を高めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
3	5	地域とのつきあい	毎年、地域の祭りである本城夏祭りに、入居者と共に参加し、カレーライス販売など出店を行っている。敬老会・盆踊り・文化祭・地域のバスハイクなどにも積極的に参加している。近所には入居者が好む、お好み焼き屋・ラーメン屋・角打ちなどがあり、入居者の意向に沿って出かけ、これまでの暮らしの楽しみや習慣の継続を支援している。ホーム主催の餅つき大会には、近隣の会社からも参加があり、交流の場となっている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	昨年の評価以降、地域密着型サービスの役割が反映された独自の理念が創られている。また個別ケアを重視したサービスの提供ができるように、センター方式を導入するなど、新たな取り組みがある。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、地域の方々のホームに対する理解を得る機会になり、家族との距離が近づく機会にもなっている。今年度8月以降の定期開催に向けて取り組んでいる。		今年度は、8月以降、偶数月開催を目指して取り組んでおり、活発な意見交換や情報収集の場となるように取り組んでいきたいと考えている。家族・地域・行政の協力を得ながら、運営推進会議の定期開催の実現に向けて、取り組みに期待します。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	必要に応じて、ケースワーカーや担当者との連絡を取り、話し合いや相談を行なっている。市町村主催の勉強会に参加したり、介護相談員の受け入れも依頼している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	行政や社会福祉協議会が行う、権利擁護に関する制度についての研修会に参加している。現在、制度を活用している入居者がおり、関係者と話し合いや相談を行い支援している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、担当者が家族通信を書き、郵送している。定期的なきらめき便りを発行しており、日々の入居者の暮らしぶりや表情などが写真でわかるように報告している。また、必要時に応じて電話で連絡している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	入居者・家族が何でも言えるような、雰囲気づくりに努めている。面会時には必ず声をかけ、要望や意見などがあれば、連絡ノートやミーティングで職員間の周知を図り、運営面で活かしている。また、ホームの行事の際には、家族会議と食事の時間を設け、何でも言っただけの関係を高めていくように取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	離職などの際には、新しい職員への申し送りを十分に行い、入居者へのダメージが少ないように取り組んでいる。2ユニットどちらでも対応できる職員もおり、代表者もサポートできる体制を築いている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたっては、経験・資格よりも「心」や「何を大切にしているか」「どう生きているか」を基本に、思いやり・コミュニケーション能力などを総合的に判断し採用している。職員の働く意欲を高めるために人事考課制度を取り入れ、目標を明確にし、資格取得などを支援している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	職員の認知症に対する理解を高め、人権に配慮したケアやサービス提供を行うように指導している。職員は日々の業務の中での感謝の気持ちを「ありがとうメッセージ」に書きとめ、その時々での職員の対応の励みとなっている。「ありがとうメッセージ」は、日々のチームワークの意識を高め、入居者や職員同士の人間関係の気づきを啓発し意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	現場での教育を重視している。法人内外の研修・講習を掲示し、勤務体制にも配慮が行なわれている。研修の資料などがあるが、研修参加者名など、わかりやすい記録が望まれる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	八幡西区における認知症徘徊ネットワークに参加し、近郊のグループホーム4ヶ所との交流があり、情報交換等が行われている。今後は、職員同士の交換研修やセンター方式の勉強会などを実施し、ネットワークを高めていきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居はネットワークのあるデイサービス事業所やケアマネジャーからの紹介が多く、関係者と情報交換を行いながら、ホームでの見学・体験を通して、徐々になじんでいただけるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	調査当日は、入居者同士が食事の際のお盆の位置や食欲についてお互いに心配し合い、暮らしのパートナーとして和やかに暮らしている姿が印象的であった。また外部からの訪問者があれば、入居者が職員に対して「静かにしなさい」と促し、さりげなく受け入れている職員の姿もあった。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用して毎日の記録を行い、入居者の方々が何を感じ、何を望んでいるのかを職員間で共有し、把握に努めている。入居者・家族から、生活歴や暮らし方の希望等の把握に努め、本人本位に検討している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	介護計画は、定期的に担当者会議を開き、目標・サービス内容など大変わかりやすいものとなっている。本人・家族の意向を大切に、医師の指示書・看護師の意見等も参考にしながら、理解しやすい介護計画が作成されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的に3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、見直しを行っている。状況に変化があった場合は、家族に報告・相談し、見直しを行なっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	昔から地元で営業している本城市場が近く、近郊に多様な飲食店もあり、入居者が出かけたい時に職員が同行し、入居者の暮らしの楽しみを提供している。花火がよく見える入居者の自宅への花火見物計画や、映画鑑賞が好きな方とは映画館に同行し、共に楽しんでいる。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の意向に沿った、かかりつけ医への受診ができるように取り組んでいる。必要に応じて往診や緊急対応ができる体制がある。服薬の相談もできる関係を築いている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、入居者・家族に意向を確認している。また状況の変化に応じて、その都度、家族との話し合いを重ねている。ホームと同じ敷地に代表者の住まいがあり、安心に繋がっている。看取りの対応方針・同意書を作成している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個々に合わせ、トイレの際の声かけなど入居者のプライバシーに配慮している。個人記録は、スタッフルームで保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりの生活リズムや行動を、その時の心身状況から汲み取り、自由に快適に過ごせるよう支援している。生活習慣や趣味、嗜好などに可能な限り個別に対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	近隣の市場へ買い物に同行し、旬の食材選びを楽しんでいる方もいる。入居者・職員が同じテーブルを囲み、食事を楽しんでいる。日々の会話の中で個々の嗜好を把握し、献立に反映させている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的な入浴日や時間はあるが、入居者の希望や状況に合わせて、柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	脇田海岸へのドライブや、競艇・映画鑑賞・買物・外食など、外出を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。タバコを好む方は、敷地内にある事務所までリハビリを兼ねて歩くなど、日々の楽しみの中に入居者それぞれの機能維持などを取り入れ工夫している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩や外食・ドライブなど気分転換を図るために外出を支援し、入居者が楽しみにしていただけるように取り組んでいる。充実した外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。玄関にモニターを設置し、安全確認を行なっている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、火災訓練を実施している。日頃から行事などを通じて、地域の自治消防団との交流がある。今後は夜間の避難訓練実施の必要性を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養摂取量は1400～1500cal、水分摂取量は1000～1200ccを目安に確保できるように取り組んでいる。栄養バランスは、管理栄養士のメニューを参考に献立を作成し、バランスの取れた食事提供に努めている。3ヶ月に1回、血液検査により健康管理を行っている。		

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	木の質感を多く取り入れた室内は、懐かしさと温もりが感じられる空間となっている。装飾も季節によって変えられ、折々の花を活けて季節感を大切にしている。デザイン性豊かな「きらめき便り」が壁に貼られ、入居者の日々の過ごし方が伝わってくる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室に洗面台を設置している。ナースコールも各居室に設置され安全面への配慮がある。入居者のライフスタイルに応じて、テレビを置いたり、畳が敷かれたり、卓袱台や椅子など、それぞれ個性的なものとなっており、これまでの暮らしを尊重した、居心地の良い住まいとなっている。入り口にはスタッフの手づくりによる暖簾がかかっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			